



福祉と住環境を考える ふくてっく

2004年10月
第60号

特定非営利活動法人
ふくてっく

559-0034大阪市住之江区南港北2-1-10 ATC ITM棟 11F 1イデリスL
TEL/FAX 06-6614-6800 ホームページ http://www.occn.zaq.ne.jp/fukutech/

7月定例学習会
平成26年7月3日(土)
(株)アミー総合建設 建設部
係長 松本 敏幸氏
* * *

アミーグループは、会社
業務からのサービス(プ
ライベートバンキング)を
務めるアミーシステムクリ
エイトが発端で、建設、設
計、監理を担うアミー総合
建設、そして建物の維持管
理を担うアミー管財の3社
からなるグループである。

このたび、全体を統括す
るワールドアミーを創設し
て、この3社を子会社化す
るとともに、介護事業部を
もつに至った。いわゆる一
棟売りの不動産開発から始
めて、老人マンション分野
に参入したわけだが、定借



介護付有料老人ホーム、 グループホーム等の 開発企画に関わる苦心談

方式で上物は当社の出資に
より建設をしている。

最初に手がけた「トル
チエアミークラブ交野」で
は、福祉施設が得意という
設計者に設計を依頼した
が、色々使い勝手が悪い
結となり、2つ目の「トル
チエアミークラブ豊中」で
は先例の失敗を活かして、
運営スタッフが内容を詰め
てゆく設計手法を確立し
た。もっとも当社は設計事
務所登録をしているわけ
はないので、表向きは設計
事務所の力を借りる必要が
あるが、単に図を書いても
らっているだけといって差
し支えない。

交野で採用したガスヒ
ボンも言うほど省エネ効
なく、豊中ではエコア
イスを使っている。

豊中は1階に30名規模
のデイサービスと2・3階
に各ユニットのグループ
ホームを有するものであ
る。

今後の構想として介護施
設1棟、グループホーム2

分と大阪ガスの給湯・床暖
房設備など、総額で一千万
強の支出が見込まれました
が、最終的にはオープン時
点でも山縣先生ご自身が多
額の資金を提供されたほか
は、思うように寄付も集ま
らず、300万程度の資金
不足状態となりました。

当参加団体の一つから基金
を取り崩して支払いには充
てるものの、今後の募金活
動に大きな課題を残しまし
た。

さりとて、本当に大変な
のはこれからです。ここで
は一つのハウスに多くのグ
ループが様々な目的で活動
同居するわけです。また地
域市民がだれでも気軽に立
ち寄りくつろぐことも期待
しています。そして、なに
より私たち市民自身がハウ
スの運営管理に当たるとい
うことなのです。当然そこ
には譲り合いや支え合いが
欠かせませんし、おそらく
トラブルも後をたないこと
とでしょう。

でも、だからこそ本場の
意味での「出合いの場」が
生まれるのだと思います。
公的な施策で造られ、そし
て運営されるものであれ
ば、各グループ間のシエ
リングがきれいに Rowe
うが、それでは偶発的な出



定例会のお知らせ

日時 11月 11月7日(日) 午前 11時〜午後4時
場所 ATC ITM棟 11階 展示イベント
ホール
内容 午前11時〜12時 連絡事項等
午後1時30分〜4時 トイレ展シンポジ
ウム
※ (詳しくは2ページをご覧ください)
日時・場所が変更です。ご注意ください。

日時 12月 12月4日(土) 午後1時 30分〜5時
場所 大阪市立社会福祉センター会議室(予定)
内容 学習会(未定)

9月7日(火)みなくる
ハウスがオープンしまし
た。

昨年暮れから運営委員会
に参加して以来、様々な苦
労がありました。こむねつ
と事業部はコミュニケーション
ビジネスというスタンスで参
画したわけですが、まずこ
のこと自体、素直には受け
入れられることはなく、そ
の理解を得る努力から始め
ねばならなかったのです。
次第に真意もわかって頂け
るようになり、最終的には
山縣先生から、「安心して
ハウスを利用するには専門



家に関わっていただく必要
があり、私は中北さんにそ
れを期待している」という
言葉でようやく納まったわ
けです。

続いている苦労は、関わる
多くのメンバー(オール女
性)のバラバラの(失礼!
多様な)思いを一つの形に
導いてゆくことでした。本
業でも病院や福祉施設など
は、かなり複雑した価値観
の調整を設計士が担うこと
がありますから慣れている
つもりでしたが、お母ちゃ
んたちの思いには妥協とか
折衷という観念がありません
ん。それぞれの要望内容を
分析整理して統合しようと
すると、「希望を聞いても
らえない」「わかってくれ
て」と思ったのに・・・と
いったふうに、客観的判断
と主観の反応が混在してな
にがなんだか訳がわからな
い議論になってしまっし
う。いったん決まったはずのこ

とがいつも簡単にキャンセ
ルされてしまうのです。家
庭では当たり前のことなの
でしようが、社会的になに
かをしてゆこうという集ま
りとはとてもいえない、そ
んな雰囲気だったのです。

それでも、さすがにエ
フ・エーさんはNPOとし
ての活動にも年季が入って
いますので、次第にエフ・
エーさんを中心に議論が進
められるようになりまし
た。それまで要望ばかり投
げかけていたメンバーも次
第に、自分たちも当事者と
して責任を負わねばならな
い事に気がつき始め、中
にはよく考えたら自分たちは
運営に参画できる力がまだ
備わっていないことを自覚
して脱会するところもあり
ました。

でも、れはさわやかな
ものでした。お互いによ
うやく周りとそして何より
自分自身がよく解ったとい
う思いがあつて、これから
も同じ地域の仲間だとい
う意識はかえって強まった
のです。オープン後の利用は
大いに歓迎される場所で
す。

そんなこんな苦労の末
に、ようやく改修計画も定
まり、工務店選びに入った
のですが、なにしろ先立
つものがない。工務店発注

分と大阪ガスの給湯・床暖
房設備など、総額で一千万
強の支出が見込まれました
が、最終的にはオープン時
点でも山縣先生ご自身が多
額の資金を提供されたほか
は、思うように寄付も集ま
らず、300万程度の資金
不足状態となりました。

当参加団体の一つから基金
を取り崩して支払いには充
てるものの、今後の募金活
動に大きな課題を残しまし
た。

さりとて、本当に大変な
のはこれからです。ここで
は一つのハウスに多くのグ
ループが様々な目的で活動
同居するわけです。また地
域市民がだれでも気軽に立
ち寄りくつろぐことも期待
しています。そして、なに
より私たち市民自身がハウ
スの運営管理に当たるとい
うことなのです。当然そこ
には譲り合いや支え合いが
欠かせませんし、おそらく
トラブルも後をたないこと
とでしょう。

でも、だからこそ本場の
意味での「出合いの場」が
生まれるのだと思います。
公的な施策で造られ、そし
て運営されるものであれ
ば、各グループ間のシエ
リングがきれいに Rowe
うが、それでは偶発的な出

会いが芽を摘まれてしま
うのです。地域福祉計画でも
謳われている「出合いの
場」は、みなくるハウスの
ようなものでなければなら
ないのです。

山縣先生は「さあ、みん
なでやってみよう」という
気持ちで、このハウスをく
ださったのでしょうか。私
たちは大変なものを頂いて
しまった。試されていると
いつてもいいでしょう。こ
のハウスが本当に私たちの
物になったとき、それはこ
の地域が真の「福祉力」を
身につけたという証です。
そのときこそ、本当に誰も
が安心して心地よく暮らせ
る地域となることできる
のです。

オープニング
セレモニーは
阿倍野区長や阿
倍野区社会福祉
協議会会長はじ
め地域役員や多
方からの参加を
含め、地域のお
母さんと子供た
ちが多数つめか
けにぎやかに
行われました。我
がふくてっくか
らも杉浦理事長
をはじめ7名が
顔をそろえ、ま
るで活動懇談会



でも開けそうな雰囲気では
ない。午前中は浪速の夫婦デ
ュオを自認する音登夢(おと
とむ)さんのバイオリンと
チェロの演奏が行われ、参
加者も豊かなひとときを送
ることができたのです。音
登夢さんのハウスへの評価
も高く、とても音の反響が
いいので是非練習会場に使
わせてほしいとまで言われ
ています。

ハウスができて、ます
ます人の輪がひろがる。
そんな夢を感じるこ
のできた一日でした。
(中北 清)



西成区社協
「夏休み親子木工教室」
朝晩は少し過ぎしやすくなつたとはいえ、まだまだ残暑が続く8月21日(土)、西成区「はぎのさと」館3階多目的会議室に於いて、西成区社会福祉協議会主催による「夏休み親子木工教室」が開催された。

作品は「飾り椅子」で、最後はミルクペイント(グリーン・オレンジ・白)で好きな色に仕上げたものであった。打合せは図だけでOKになったが、それでは少し不安になったので、後

材料はあらかじめ角材を寸法通りに切り、釘穴を開けておき、釘をゲンノウで打つところから始めた。お父さん・お母さん・子どもさん共に見て、お父さんが一所懸命に取り組み、中にはあやまってゲンノウで指を打ち、べそをかいた子どももいたが、最後まで頑張つて仕上げをして完成

日実物を持っていき職員の方に納得してもらつて決定した。
職員の方の司会で西成区社会福祉協議会会長さんの挨拶があった。今までの木工教室で会長さんが挨拶されることはなく、さすが福祉・庶民の町、西成区だなあと驚き、感心もした。
引き続き杉浦さんのユーモアあふれるノコギリの使い方、ゲンノウで釘の打ち方の説明があり、「飾り椅子」作りの作業を始めた。当日の参加者は15名で内訳は受講者5名・社協3名・実習生1名・ふくてっく5名・その他1名だった。



あるお父さんは「子どもの時には少しノコギリを使っていたが、結婚してからやっていた」と子どもさんと楽しそうに取り組んでいた。またあるお父さんは「大工仕事は若い時から好きでしたので参加して楽しいです」と言われ、色づきに張り切って挑戦していた。みなさんは出来上がった作品をほめたり批評しあっていたが、皆満足そうであった。今回塗装を取り入れた事が良かったと、全員一致した感想だった。
飾り椅子のアイデアから図作成までされた杉浦さん、ウィットに富んだ会話で相手を楽しませつつ適切な指導をされる池端さん、材料を正確な寸法に切つて準備してくれた匠の長岩さん、裏方に徹し木工部の

木工 工場見学

明方に激しい雨が降つた7月20日(土)、八尾市の木工工場(株)イケウチさんを見学させていただきました。ここは大光電機(株)さんが照明器具の製作に関わりがあるということ、池端さんの紹介によるものです。心配していた雨も天王寺集合の二時には上がり、八尾の志紀駅に着く頃には日差しが照り、持っていた雨傘を日傘にして工場へと歩きました。



最初社長さんから、工場の説明がありました。ここではオリジナル商品として、基石入れ・トレイ等を作っており、インターネットで注の杖の注文も受けているとのことでした。他は企業からの注文品を作っています。ちょうど某大手牛丼チェーン店の新商品用トレイ3万個の制作真っ最中でした。木工製品は中国から安いのが入ってくるし、塗料の制約もあり、経営も難しいものがあるとのこと。この工場では原材料から製品の仕上がりまで様々な工程を見ることができるとのことですが、土曜日ということで、一部の作業はお休みで



した。それでも初めて見る様々な作業は珍しく、見ていて感心するものばかりです。トレイひとつ作るにも多くの工程があり、たくさんの方が関わっておられます。冷房がなく扇風機をまわしてお仕事されている方の苦労を思うと、木工品も作るぞかにはできません。見学の後、再び社長さんにお話を聞き、工場後にしました。
お昼時となった為、駅前の定食屋さんで昼食をとりました。のどが渇いたのでビールも一杯。暑い中、みなさんお疲れさまでした。楽しい見

成年後見制度について

精神上的の障害により、判断能力が不十分な人を、不利益から守る制



黒河氏 松崎氏

8月定例学習会
平成16年8月7日(土)
講師 司法書士 黒河 貴司氏
アシスト 司法書士 アシスト 松崎 基行氏

はじめに司法書士とは何をする人かと言つと、法律上の諸権利を、登記をする専門職である。元来、弁護士とは仕事内容がかぶさっている所があったが、あまり職能を分けすぎると利用者も困るので、職能の区切りをなくしてゆこうという流れと、一方で国民

が裁判を受けやすくする目的で、弁護士を増員するとともに、司法書士にも裁判の代理人となる道が開かれた。(係争額が140万円までが対象)
成年後見制度は最近になってきた制度で、どの資格の役割とは決まっていない。家庭裁判所が管轄しているのも、これも一つの裁判である。今のところ司法書士には代理権が認められておらず、本人名によって処理しているが、成年後見制度を積極的に受け入れることによって、いづれは代理権を得たいと考えている。
現在の制度は従前の禁治産・準禁治産制度の不備を改めて2000年4月にスタートしたが、法定後見制度と任意後見制度がある。その意義は精神上的の障害により判断能力が不十分であるために法律行為における意志決定が困難な者について、その判断能力を補助するものである。精神上的の障害とは身体上の障害を除く。

任意後見制度は、本人がまだ契約締結に必要な判断能力を有している間に、自己の判断能力が不十分な状況に陥つたときにおける後見の事務の内容と後見人を専ら事前の契約により決めておく制度である。家庭裁判所が任意後見監督人を選任したときから契約の効力が発行し、それまでは「見守り」を務めることになる。主として身体上の障害

を補う財産管理とセットで契約しておくといふ。
いずれにしても、成年後見制度はまだまだ制度的に未完成な部分も多く、また法律用語がやたらと難しいところが課題である。後見人の選任についても、本人の意思確認のところで理解の真偽を問われるのであるが、ここで曖昧な返答があると認められないことさえある。そもそも、法律上の意志決定が困難な者が対象であるのに、そうした的確な意志表示を制度適用の要件にしようとする所に無理がある。
私的な契約概念と公的な規制とのバランスは、とかく難しいもので、成年後見制度に限らず、世の様々な局で生じている課題の多くはそこに原級があるように思われる。
(質疑応答から)
Q 後見人が代行した判断によって本人に損失を与えた場合の賠償責任は?
A 元来、そのような責任行為の代理はなじまない。
Q 契約の終了は?
A 後見人の不正、死亡。監督人による解任など。
Q 制度のオリジナルは?
A 平成二年の民法改正時に諸外国の制度を比較検討

トイレのすべて展 入場無料
—気持ちいいトイレを見つけよう—
本人や家族、介護する人のために、排泄に関する住宅設備や製品、情報を見やすくわかりやすく展示します。
体験しながら使用者にフィットするものを探し、理解を深めることができます。
と き10月28日(木)~11月7日(日) 水曜休館 10:30~17:30最終日16:00
ところ 大阪南港 ATCエイジレスセンター(ATC・ITM棟11階) テーマゾーン
シンポジウム *参加無料*
11月7日(日) 13:30~16:00
ATCエイジレスセンター 展示イベントホール
「ユーザーの視点でトイレを考える」
第1部 基調講演 講師 浜田 きよ子氏 (株)排泄総合研究所
代表
第2部 パネルディスカッション
※ふくてっく11月定例会と致します
主催 NPO法人 ふくてっく

討。今回の改正はカナダやベック州(フランス系)を参考
Q 公証役場とは?
A 裁判官、検事出身で超の人、大阪で力所。公証役場で任意後見の契約ができるが、各人に即したオーダーメイドの契約内容にはなりにくい。
Q 社協は後見人になれるか?

A 個人ではなく法人として後見人になることができる。
福祉的な(ソーシャルワークの)視点で身上監護から財産管理にいたるまで、広く生活の全を支援できることが期待される。幅広い研鑽と人的資源のネットワークが重要。
(記 中北 清)

住宅改造 事例報告

東淀川区下野 77歳 女性
 今年6月、デイサービスセンター水仙の家からの依頼。対象者は77歳女性、車椅子使用、中程度の痴呆症(来年から)、の言い方になるようです)。ご長男が家族と同居。ご自宅兼婦人服店。お店は2代目のご長男が経営。最近、あまり売れなくて、生活費に響いておられるとのこと。(巨大スーパが乱立すると、どうしてもこのよう小さいお店の商売は難しくなるのは、しかたないことなのではないでしょうか)

ご希望の改修内容は車椅子でお風呂まで行けるようにということと、2階物干しの一部改修と撤去(これは介護保険対象外)。寝室から浴室までのバリアフリー。
 今まで大阪ガスともう一軒の業者に依頼されましたが、大変高額な見積もりであったため、お断りになったとか。
 そのバリアフリーの方法については、ふくてっく事例報告で会員のみなさんに



た。(畑 俊治)



←浴室施工後 入口段差をスロープに

相談しました。ぼくは庭に浴室までたどりつく廊下を設置する案を提案しましたが、もっと安価になる改修方法はないものか?
 やはり多くの頭で考えるべきですね。磯田会員が「既設廊下に置いてある洗濯機が車椅子移動に支障をきたすのでしたら、庭の一部を洗濯機置き場にしたらどうでしょう」(さすが、たかじんのマンションのリフォーム設計者)
 その案を採用。そして立派な会員が見積もり。見積金額にはクライアントも納得。
 先日、無事工事が終了しました。Tさんご家族、水仙の家の西村主任にも大変喜んで頂けました。嬉しかったです。「人は人に喜んでもらうために生きていく。人の役に立つために生きていく。」ということをもっと改めて実感いたしました。

相談しました。ぼくは庭に浴室までたどりつく廊下を設置する案を提案しましたが、もっと安価になる改修方法はないものか?
 やはり多くの頭で考えるべきですね。磯田会員が「既設廊下に置いてある洗濯機が車椅子移動に支障をきたすのでしたら、庭の一部を洗濯機置き場にしたらどうでしょう」(さすが、たかじんのマンションのリフォーム設計者)
 その案を採用。そして立派な会員が見積もり。見積金額にはクライアントも納得。
 先日、無事工事が終了しました。Tさんご家族、水仙の家の西村主任にも大変喜んで頂けました。嬉しかったです。「人は人に喜んでもらうために生きていく。人の役に立つために生きていく。」ということをもっと改めて実感いたしました。

今回のテーマは、実は私の母の話です。2年前、夫を亡くしてから、東京で1人暮らしをしていきます。同年代の人に比べて元気です。今まで病気はほとんどした事はなく、3階建ての家に1人で気楽に暮らしていましたが、今年4月「老人会」で転倒し、「脊椎圧迫骨折」で入院しました。一カ月後退院し、自宅に戻りましたが、行動が極端にスローになりました。
 現在は、介護保険の認定を受け(要介護1)、最低限の住宅改修をし、「週2回のホームヘルプサービス」を受けるようになりました。子どもたち3人の内、私以外はもうこれで安心と思っております。私だけが、今後のこと、軽い「痴呆」もあり、将来が心配で、あれこれ考えています。そこで、今回研修会の研修材料にしました。
 「ふくてっく」の皆さんの貴重なご意見・提案を頂き、正直言って大変驚きました。中には、私の今までの眼中には全くなかった提案もあり、さすがその道のプロと、感心しております。
 そのご意見・提案として、
 1. 「グループリビング」的な「共同生活」にしたらどうか。
 今後は1階で全ての生活をしており、2階3階が空いています。そこで、2階3階を同じような高齢者に貸して、「共同生活」をし、市町村より適切な支援を受ける。これは、どのような行政の支援が受けられるか、調べることがあります。又、本人が「共同生活」を望むかどうか確認しないとイケません。
 2. 「デイサービス」に行ったらどうか。
 「痴呆」にとって、日常生活に刺激がないことが一番いけない。今の「週2回のホームヘルプサービス」にプラス「デイサービス」も受けられる筈。と言う事で検討を致します。
 3. これから冬に向って、トイレ・浴室の暖房を考えた方がいい。
 これは当たり前の事ですが意外でした。居室には、かなりいい設備のエアコンがついておりまして、今までは、こういう視点から、
 4. 玄関外の階段を撤去して平らにし、玄関部分に2階までの段差解消機を設置する。
 これは大胆な意見でビックリしましたが、検討の余地はあります。とにかく、外部のこの階段が、将来外へ出る場合の一番のネックです。これを解決しないことには、長くこの家には住めません。
 その他、「ホームエレベーター」の件、「トイレ」の置の問題等、色々頂きました。全て参考に、検討致します。
 高齢者の「ケアサービス」は「チーム」で、と言われますが、本当に多様な職種の様々な視点が必要であることを実感致

もっくろう 教室

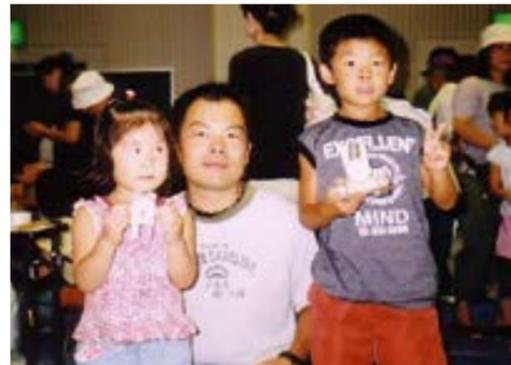
トモノス旭子どもの家
 「木切れ工作教室」
 今年の夏はとびきり暑い。にもかかわらず7月2日(水)トモノス旭子どもの家主催の「木切れ工作教室」は外での開催でした。子ども数名に主催者5名、ボランティアとして東洋学園の女の子2名とふくてっく5名でのスタートです。
 今回初めてのことでしたが、木片・工具とも主催側が準備するので、ふくてっくからは人手だけお願いしますとのことでした。それでも工具が不安でしたので、長岩さんは自分の工具を持参され、大変助かりました。やはり工具が不足きみでした。
 最初に紙に作りたいたいの絵を画いてから始めます。白い紙を前に、とても出来そうにな



いものを画く子、何も浮かばず悩んでいる子。まず木切れを手にとってみる。この方が大切だと思うのです。普段、私は木工教室では「自分も遊ぶ」ことをモットーに、あまり子どもにべったりつかないようになっているのですが、今回はほんとうに真目に子どもの倒れを見、制作に手を貸しました。(私もやれば出来るのですよ)
 暑さでぼたぼた汗が落ちるなか夕立もあり、結構過酷な環境の下でしたが、みんなよく頑張りました。皆さん、ほんとにほんとお疲れさまでした。
 帰りに千林商店街でギョウザと生ビールをいただきました。ああ幸せ。これがあるからやめられない。
 参加者 有馬・平松・長岩・光川・和泉 (和泉 秀子)

7月24日(土)、城東区人権啓発委員会主催の「元気フェスタ」で行われた木工教室に、「自分の住んでいる地域の木工教室くらいはお手伝いしない」と思い、初参加させて頂きました。
 当日は、猛暑の中、どの人が来るのか?どの様に接すればいいのか?少し不安もあったのですが、それも開始の午前10時まで、それ以降は考える暇も無く、午前中だけで100名を超える大盛況でした。
 バタバタしながらも親御さんの「どうしたら良いの?」、子ども達の不安そうな目を見ると、「よー

し、一緒に作るか!」「わからん所は聞きや!」でホッとした様子でした。
 親御さんの中には「今日は釘は使わないの?」「切るのはどこだけ?」と少し物足りなさそうな方もいましたが子ども達は四苦八苦して大変そうでした。
 屋前には、汽車・フクロウの鉛筆立てが無くなり、がっかりしている子ども達も...しかし、準備して下さった木工部会の人達の大変さが少し解りました。組立てるだけでいいように穴を開けたり、形を揃えたり、また少し作業を残しておくようにと下準備あればこそ木工教室でした。(本当日ご苦労様です)
 屋間は少し参加者も途絶



城東区人権啓発委員会 「元気フェスタ」

旭区
 母と子の共励会母子部
 「夏休み親子木工教室」
 8月8日(日) 朝から日差しが強い暑い日であった。午前9時に集合、搬入の八木八朗さんの車を待った。有馬さん、長岩さんに加え、高木さんも来て、10

え休憩を取りました。地元という事も知り知っている人も何人が参加して頂き、おまけに私の子どもまで参加して夏休みの宿題を仕上げ喜んでいました。
 プログラムの関係か、終了間際にも多数の参加があり、少し作業を進めた頃に「残りあと5分です...あと2分で終わりです」に慌てる子ども達もいました。
 最後まで細かい作業を一生懸命する子、手がマジックで汚れても平気な子、木工ボンドがたっぷりみ出ても気にしない子:色々な子ども達に参加頂きました。
 初参加でしたがとても楽しく、時間も短く感じた木工教室でした。また機会があれば(作りますのでよろしく)参加したいと思えます。
 (小川 忠雄)

時には準備完了となる。
 今回の作品は「汽車型エンジンピツ立て」。「ふくろうエンジンピツ立て」。少々狭い部屋であったが、お母さんと子ども40名が制作に取り組み、1時間半ほどで出来上がった。今回長岩さんの提案で材木の縦方向の切断

前日まで準備に追われ、色々苦勞もありましたが、暑さと戦ったこの木工教室も無事終わり、次の木工教室の準備にとりかかることにした。
 (木工部 光川 環代)

